

1 , 試合における禁止事項

講道館柔道試合審判規定より

※ 講道館柔道試合審判規定第35条に基づく反則の判定基準は次の通りである。

No.	禁 止 事 項	判定基準
1	積極的戦意に欠け、攻撃しないこと。（約30秒間） 最初に与えられるものを「教育的指導」という。「教育的指導」は、反則とはならない。ただし、2回目に与えられるものは反則「指導」となる。	指 導
2	相手と取り組まず勝負を決しようとししないこと。（約20秒間） また、組んでも切り離す動作を繰り返すこと。	
3	攻撃しているような印象を与えるが、明らかに相手を投げる意志のない動作を行うこと。（偽装的な攻撃）	
4	立ち勝負のとき、極端な防御姿勢をとること。（6秒以上）	
5	立ち勝負のとき、相手の同じ側の襟や袖を握り続けること。 (6秒以上)	
6	立ち勝負のとき、相手の帯や裾等を握り続けること。（6秒以上）	
7	立ち勝負のとき、必要もなく相手の腕の下をくぐり抜けること。	
8	相手の袖口や裾口に指を入れて握ること。及び立ち勝負のとき、相手の袖口を直接ねじって握ること、又は絞って握ること。	
9	立ったままで、試合者が互いの手の指を組み合わず姿勢を続けること。 (6秒以上)	
10	服装を乱すこと、及び審判員の許可を得ないで勝手に帯等を締め直すこと。	
11	防御又は寝技に移るために、立ち姿勢又は寝姿勢から、立ち姿勢の相手の足（又は脚）を手でとること。ただし、巧みに相手を倒す場合を除く。	
12	帯の端や上衣の裾を相手の腕に巻きつけること。	
13	柔道衣をくわえたり、相手の顔面に直接手（又は腕）や足（又は脚）をかけること。又は相手の髪をつかむこと。	
14	無意味な発声をする事。	

No.	禁 止 事 項	判定基準
15	絞技の中で、頸部以外を絞めること。頸部であっても帯の端又は上衣の裾を利用して絞め、拳又は指で直接絞め、もしくは直接両脚で挟んで絞めること。	注 意
16	固技のとき、相手の帯や襟に足（又は脚）をかけること。	
17	相手の指を逆にして引き離すこと。	
18	寝技に引き込むこと。	
19	相手の握りを切るために、相手の手又は腕を膝や足（又は脚）で蹴り離すこと。	
20	立ち勝負のときに、場外に出ること。ただし、相手の技又は動作により出る場合を除く。	
21	故意に、場外に出ることや相手を出すこと。	警 告 又は 反則負け
22	払腰等を掛けられたとき、相手の支えている脚を内側から刈り又は払うこと。	
23	河津掛で投げること。	
24	関節技の中で、肘関節以外の関節をとること。	
25	頸の関節及び脊柱に故障を及ぼすような動作をすること。	
26	背を畳につけている相手を引き上げ又は抱き上げたとき、これを突き落とすこと。	
27	試合者の一方が後ろから搦みついたとき、これを制しながら、故意に同体となって後方に倒れること。	
28	立ち姿勢から腕挫腋固等を施す場合、一挙に体を捨ててとること。	
29	場外で技を施すこと。	
30	審判員の制止又は指示に従わないこと。	
31	相手の人格を無視するような言動をすること。	
32	相手の体に危害を及ぼしたり、柔道精神に反するようなこと。	
33	内股、跳腰、払腰等の技を掛けながら身体を前方に低く曲げ、頭から畳に突っ込むこと。	反則負け

* 33号の条文に対し、以下の取り扱い統一条項を付け加える。（平成13年7月1日適用）

33号の反則適用の見解について

袖釣込腰、肩車等では、頭から正面に飛び込んで投げるような動作をすること。

又、肩車では後方にブリッジするような動作をすること。